

まちづくりの成功例に学んで



福井県越前市のとりくみ

日本共産党市議団の猿渡（えんど）久子市議は、この間いろいろな視察で各地のまちづくりなどを勉強しました。

猿渡（えんど）久子市議は、5月20、21、22日に観光経済委員会との視察で、福井県越前市と兵庫県豊岡市を訪れました。

越前市では、別府でも総務省の認定をめざしている中心市街地活性化基本計画にもとづいてまちづくりを学びました。



越前市JR武生駅近くの蔵の辻。昔からある蔵を店舗などに改造。おしゃれな喫茶店や工房が並ぶ。

月2回、蔵の辻のひろばではストリートライブや骨董市などのイベントを行なっている。



越前市役所にて08. 5. 20.

駅前に「まちづくりセンター」を設け、まちづくり会社・商工会議所・市職員の三者が連携して活性化事業に取り組んでいます。



駅前には大学生が活用できるスペースなども設置。

しかし「中心商店街の活性化は難しい」とあきらめ気味でした…。

越前市（人口約8万7000）の中心市街地活性化基本計画では、ソフト面の取り組みに力を入れているとのことでした。

越前市の計画は昨年11月に国の認定を受けています。それ以前にも「中心市街地活性化プラン」にもとづき、

都市計画課が関係13課をまとめて推進、また住宅用地購入促進事業（住宅用地購入のための一部を補助する事業）などをすすめてきました。「国の認定を待っての実施ではダメだ」と国からも指導があるとのこと。



日本共産党 別府市議団

げんきニュース

TEL・FAX 平野文活21-6749・野田紀子22-9253・えんど久子25-7630
<http://www.ctb.ne.jp/~jcpbesig/>

発行責任者 平野文活
別府市石垣西8-2-31
TEL0977-22-6576

No.342
2008. 5. 28.

城崎温泉 湯布院などに学び まちづくりの方向性しつかりと



下駄似合う湯の里守る人と人

朝7時前、「一番札」をもとめて浴衣姿の宿泊客が外湯に集まる。柳がとてもきれいで石橋に映える。湯の町情緒あふれる地にと、大正14年の大震災後、柳を植え石造りの太鼓橋を作った。そして、県の景観条例などでこの景観を守ってきた。 08. 5. 22.

他にも5月12日に日出町へ23日には由布市へ、日本共産党市議団として景観条例を勉強するために行きました。城崎温泉や湯布院は、まちづくりのビジョンがしっかりしていてブレない、住む人によさしいまちづくりで、観光に成功していると感じました。城崎に市が建設中の「木屋

町小路」は、温泉街の活性化のために市が建設中の店舗です。「行政がそこまで……という議論もあったが、後継者がいない中、いま行政が手を出さなければ温泉街の魅力が半減してしまう」という市の話が印象的でした。別府市として学ぶべきことが多いと考えています。



再びコウノトリが住める里にと40年来努力し、放鳥にこぎつける。



宿ごとに下駄を並べる外湯かな



豊岡市は木屋町小路整備事業でホテル跡地に店舗を建設中。ここで実績を積んで商店街に入ってもらおう。



別府市内の現地視察。鉄輪で地獄蒸しのさつまいもを食べるえんど久子市議。 08. 4. 25.

外湯めぐりで成功した城崎温泉

兵庫県豊岡市（人口約8万9900人）の城崎（きのさき）温泉では、集中管理による7カ所の市営温泉をいかした外湯めぐりを視察しました。城崎（人口約3800人）は、1400年の歴史をもつ温泉地。観光客は年間100万人（宿泊70万人）。「商店街も元気ですね」と言うのと、今は一番閑散とした時期で、忙しい時期は歩行者天国のようになり車が通れないほど」と言われました。

旅館の内湯をめぐり昭和2年から23年間にわたる紛争を乗り越え、昭和45年より外湯めぐりの政策で共存共栄しています。そのために、規制で旅館の内湯や売店は小さくしています。旅館に泊まると無料で外湯に入れます。